

豊かで 伸びやかに そしてたくましく



スカウト みやぎ

No. 18

発行

日本ボーイスカウト宮城県連盟

発行日

平成20年6月30日



平成20年度年次総会開催

総務委員長 菅野 五郎

平成20年度日本ボーイスカウト宮城県連盟年次総会は5月11日（日）仙台市青葉区仙台市民会館において仙台地区が主管し開催されました。

仙台市民会館は、村井嘉浩連盟長が平成18年4月30日連盟長推戴式で「ちかい」を行った思い出の会場であります。

開会式では国旗儀礼に始まり村井連盟長の式辞を公務出張のため郷家照夫副連盟長が代読し平成19年度の活動・進歩等に対する各種褒状、併せて日本連盟・県連盟からの各種有功章が紹介、贈呈されました。ご来賓に宮城県教育庁生涯学習課浦山正幸様をはじめ、多くのご出席をいただき、また祝電の披露がありました。

総会議案は、仙台第11団菊地彬夫団委員長が議長に選出され、平成19年度事業報告、収支決算の他、平成20年度基本方針「より良いスカウティングをより多くの青少年に！」等、原案通り承認されました。

続いて、世界スカウト運動創始100周年記念事業（平成16年より3年間実施）「ひとつの世界、ひとつのちかい」のクロージングセレモニーではオペレッタ「世界のスカウト」を参加スカウトが世界各国のユニフォーム姿で登場、「次のステップアップ」を全員で誓いあい、思い出多い100周年記念事業の幕を閉じました。

連盟長式辞

若葉青葉をわたる風も快く感じられます今日、平成20年度ボーイスカウト宮城県連盟年次総会を挙行できますことを大変喜ばしく思います。

皆様方には宮城県のスカウト活動の普及・啓発のため、日々御努力をいただいていますことに心から感謝を申し上げます。

また、本日の表彰の栄に浴されました皆様方には、宮城を担う青少年の健全育成のため、献身的にスカウト活動を支えていただいておりますことに心から敬意を表します。

さて、昨年度は、世界スカウト運動の創始100周年の佳節となる年でしたが、皆様におかれましては、スカウト運動の原点を見直すとともに、今後の活動指針を考え合う貴重な機会になったのではないかと思います。

関連する各種記念事業を計画し、活動の活性化につながる大きな成果を生み出した指導者の皆様にあらためて感謝を申し上げます。

さて、私たちの取り組みは、大きな節目を経て、更に一步前へ進んでいかななくてはなりません。そのためには、指導者とスカウト一人ひとりが、「そなえよつねに」の姿勢をもち、小さくとも意義のある活動を自信をもって続けていくことが大切です。

その意味で、昨年度は市民運動会終了後の会場の清掃、雨の中でのカントリー活動、さらには市民祭りへの鼓笛隊の派遣など、地域社会の課題や要請に対応したプログラムを実施し、感受性豊かな時期にある青少年の心を育むとともに、地域の連帯感を醸成することに寄与したことは意義がある取り組みであったと思っています。

指導者の皆様には、今後とも、青少年にとって、魅力ある活動、意義のあるプログラムの開発をしていただき、宮城の青少年が変化の激しい社会において、自立した人間として力強く生きていくために必要な力をしっかりと育てていただきますようお願い申し上げます。

そして、今年度も、各地区での各団、各隊による活動が一層充実し、一人でも多くの青少年が仲間として加わることを期待しております。

最後になりますが、本日ご参加頂きましたボーイスカウト宮城県連盟の関係指導者、並びにスカウト、そしてご臨席いただきましたご来賓の皆様の益々の弥栄を祈念して総会挨拶といたします。

平成20年5月18日

日本ボーイスカウト宮城県連盟
連盟長 宮城県知事 村井 嘉浩

世界スカウト運動創始 100 周年

記念事業報告書（編集・配布について）

100 周年事業推進委員会 委員長 芳賀 文蔵



世界スカウト運動が創始されて100周年を迎え、全世界のスカウトの組織をあげて記念行事を行うこととなり、県連盟でも推進委員会を設置し、10に亘る行事を6つの委員会で分担して実行委員会を作り取り組んで参りました。平成16年のオープニングセレモニーに始まり、海外スカウトの受入；北海道東北キャンポリー；盛況の藤崎でのスカウト展；好天に恵まれてのスカウトラリー・パレード；ローバー、ベンチャーが参画運営したB-P祭；親子アウトドアキャンプ；実験キャンプの再現そしてクロージングセレモニーまで、各団の協力、大勢のスカウトの参加、リーダー各位の奉仕により、それぞれの目的を達して実施されましたことは、有難く心からお礼を申し上げます。

発刊の報告書は各事業ごとに、目的、実施期日、場所、参加者、事業の概要、成果、開催までの経過、経費等に併せて各地区各団の冠行事や主要行事の写真を、A4版24頁にまとめ報告書を作成しました。

100周年行事の3年余り、各実行委員会のご努力に敬意を表するとともに、取り纏めに当っては広報委員会にお願ひし、特に冠行事等は再確認の呼びかけだったにもかかわらず原稿の集まりもはかばかしくなく、印刷日程の関係もあり渡辺副委員長には期日ギリギリまで「版下作り」を担当して頂き、平成20年5月11日発行・即日全団並びに参加者に配布することができましたことに感謝をこめてお礼し、今後の宮城県連盟の成果になることを念じ発行の報告と致します。

平成19年度県連盟感謝・表彰 報告

県連盟感謝状

渡辺昭彦 県連盟 理事
松岡健美 県連盟 理事
平岡 威 県連盟 理事
丹野邦夫 県連盟 名誉会議議員
三浦 章 県連盟 名誉会議議員
村田雄亮 県連盟 名誉会議議員
須藤英一 県連盟 副コミッショナー
大友康一 県連盟 副コミッショナー

県連盟感謝章〔平成19年度 追贈〕

故 三浦 章 石巻地区協議会長
故 鈴木久直 県連盟 副連盟長

県連盟感謝章〔平成18年度 追贈〕

故 遠藤 功 石巻地区協議会長
故 大山英典 県連盟 事務局長

平成20年度県連盟表彰

宮城県連盟

県連盟褒状（精励スカウト）

富士章スカウト

榛澤 真 石巻 第6団 VS隊
東海林 歩 仙台 第1団 VS隊
五十嵐佑太 石巻 第6団 VS隊

菊スカウト

紺野航太郎 泉 第1団 BS隊
蟻坂みどり 石巻 第6団 BS隊
須田裕基 石巻 第6団 BS隊
三品彰人 名取 第1団 BS隊
宮野翔平 仙台 第1団 BS隊
吉田 隼 仙台 第1団 BS隊
石垣誓吾 仙台第37団 BS隊
本田和貴 仙台第37団 BS隊
目黒 創 岩沼 第1団 BS隊
中村正紀 仙台第22団 BS隊
沼田裕也 名取 第1団 BS隊
京 洋平 仙台第37団 BS隊
佐藤貴一 石巻 第2団 BS隊
松本憲顕 石巻 第2団 BS隊
星川貴樹 泉 第1団 BS隊
戸枝龍之介 多賀城第2団 BS隊

高橋弘晃 名取第1団 BS隊
早川奈美 仙台第1団 BS隊
川田祥久 仙台第1団 BS隊

県連盟感謝状

旭山農業体験実習館
森田峯男 迫 第1団 育成会員

県連盟特別有功章

佐藤年男 仙台第22団 CS隊隊長
佐藤元通 塩釜 第1団 団委員
阿部活子 石巻 第6団 副団委員長

県連盟有功章

和田剛和 仙台 第1団
副団委員長・仙台地区副コミ

小原哲夫 仙台第12団 RS隊隊長
荒 英男 仙台第30団 BS隊隊長
小野寺康 仙台第35団 BS隊隊長
後藤勝典 仙台第35団 団委員
鷲 敏之 仙台第37団 BS隊隊長
木村敏恵 石巻 第1団 BS隊副長
柳橋利之 石巻 第2団 VS隊隊長
津田孝幸 石巻 第2団 VBS隊隊長

褒状

高橋 篤 名取 第1団 BS隊隊長

日本連盟

感謝状

渡辺 多喜子 塩釜第1団関係
(平成20年5月24日 受章)

松原 健二 泉 第1団

日本連盟トレーナー退任

功労賞（平成20年5月24日 受章）

かつこう章

大丸正則 県連盟 理事（プログラム委員長）

かつこう章

千葉義博 県連盟 コミッショナー

団50年章（平成20年度 受章）

仙台第11団

各種委員会紹介 Part.1

ボーイスカウト宮城県連盟広報委員会

一流の割烹であれば 調理師板前の様、集団

広報委員長 堀越 祐壽

各地区・団からの沢山の素材原稿への味付け・盛り付け・色つけ・いつもそれが賞味期限付きの新鮮素材の調理となると手は抜けない事と1号発行毎少なくとも2回は会議の招集があり、大沼茂雄（仙南地区）、柿沼富雄委員長職務代行（仙台地区）、砂神名湖（東部地区）高橋修（石巻地区）久光和明（県北地区）の各委員に加えて県連盟理事組織から委員長として堀越祐壽（栗原市）副委員長として渡邊七郎（岩沼市）と、県域ほぼ100キロを縦断しての集まり。

後期高齢者二人を含んでの平均年齢は56歳。希少女性委員も1名。

前年度事業はスカウトみやぎ第14号から第17号までの発行。

ボーイスカウト運動創始100周年事業記録の集成等は県連各委員会との協働でほぼ達成。

20年は新企画として『より良いスカウティングをより多くの青少年に』の県連盟の方針に基づき、2号続きの企画で千田好男理事長との対談記事でそれぞれのスカウト運動に寄せる思いを。

引き続いての20年度は第18号から21号までの発行と県連盟各委員会活動常時ご奉仕の動向記事を順次連載でとの企画。日本連盟機関紙『スカウティング』への情報提供当の計画。

県内各地区持ち回り出前委員会、5月に県北大崎市古川『パレット大崎』を会場に試行。

18号編集委員会、地震翌日6月15日、塩竈市公民館で第2回目を開催。

ボースカウト運動関係各委員会のアンテナ&スピーカーとして組織活動推進協働のため、広報委員会の活用働きかけお願い致します。

注）石巻地区は新年度から榛澤達夫委員

次号委員会活動紹介にご期待を！



←県連事務所にて



パレット大崎にて

仙台地区年次総会開催

仙台地区広報委員長 柿沼 富雄

平成20年度の仙台地区年次総会が4月20日当番団の仙台第11団のご協力を得て、仙台市吉成市民センターで開催されました。

来賓として宮城県連盟千田理事長、千葉コミッショナーを迎え、議事に入る前に仙台第11団、仙台第27団の両団がスカウト増加団として表彰され、大きな拍手が贈られました。

会議に入り、仙台第22団の光田氏が議長を務め、第1号議案から第5号議案までが審議され、無事承認されました。

終わりに、小山仙台地区コミッショナーが仙台地区創立40周年記念並びに仙台地区キャンポリーの成功を祈念して、弥栄で閉会となりました。

会場の一角には、地区広報委員会よりスカウト

運動創始100周年記念事業の写真と19年度の活動記録のアルバム2冊が展示されて、会場に花を添えました。



東部地区ビーバーランド2008

東部地区BVS活動委員会 委員長 絹村 真知子

開催日：4月20日（日）

開催場所：水の森公園キャンプ場（泉区上谷刈）

参加人数：70名（内スカウト25名）

2日間降り続いた雨も朝方には上がり、お蔭様で用意して頂いたフライテントを使うことなく、ポカポカ陽気の中、活動を開始することができました。

今年のテーマは「絵本の中にタイムスリップ」！！各団ごとに皆さんがよく知っている絵本の話に基づいてブースを作りました。次のとおりです。

三匹のこぶた・・・レンガ積み競争
浦島太郎・・・魚釣り
金太郎・・・パズル

白雪姫・・・毒りんご当て
桃太郎・・・鬼退治（ボール投げ）
ヘンゼルとグレーテル・紙芝居（おやつ付）



以上のように、それぞれの絵本の特徴を上手に利用し、楽しいゲームが出来上がりました。

スカウト達は、「な～んだ、この話し知ってる～」と言いながらゲームに夢中になり、いつの間にかゴールに到着。ゴールでは、フィルムケースを利用して落下傘を作り、参加賞の手作りワッペンを胸に付けてもらってニコニコ顔のビーバーでした。

ひとしきり楽しんだ後は、団委員の方々に準備して頂いた昼食「塩釜汁」を美味しく頂き、楽しい思い出とともに無事閉会することができました。

石巻地区カブラリー開催

石巻地区カブラリーが3月23日石巻市桃生総合センターにおいて実施されました。

テーマは「冒険と友情」目的はフィールドアスレチックや、ゲームに挑戦しながら各隊のスカウトとの仲間作りや、指導者並びに保護者の情報交換の場として盛り上っていました。



「アスレチックや綱引き、友情ゲーム楽しかった」

石巻第6団カブ隊 武山 海司

今日のカブラリーで楽しかったことが2つあります。

1つ目は、午前の部のアスレチックがおもしろかったです。

一番おもしろかったのは、ロッククライミングのアスレチックです。とてもはくりよくがあったのでおもしろかったです。2つ目は、午後の部です。綱引きがとてもむずかしかったです。1位になれなくてごんねんでした。

「カブラリーにさんかして」

石巻2団カブ隊1組 田中 あみ

私は、ものうでカブラリーにさんかしました。

さいしょに、フィールドアスレチック、ハンターゲームをしました。アスレチックをしながら、動物カードを見つけるのですが、わたしはカードを4枚見つけて、「よっしゃあ」と言いました。いっぱい見つけられてうれしかったです。

みんなでおにぎりを食べた後、体育かんに入りました。バラバラになって、「ぼうけんと友しよう」という言葉を5人組で作りました。わたしは、知っている人もいたけど、ちがう団の人といっしょになってきんちょうしました。その後、その組でつな引きをしました。なんと、わたしたちの組がゆうしょうしました。ちがう団の人「ゆうしょうできてよかったですね。」とお話しました。また、ちがう団の友だちとあいたいな。

限界はどこにあるのか～100kmの道～

岩沼第1団ベンチャー隊 大村 健人

きっかけは、同じ学校の友人である福島第1団の村上君との会話の中でした。岩沼第1団では毎年40kmのオーバーナイトハイクをやっているが、福島第1団では隔年100kmハイクを行っていると聞き、「自分がどの位まで歩けるのか限界を知りたい」と思い、次回の100kmハイクに参加したいと申し入れたのが始まりでした。

村上君との話し合い中に途中から、本学生の福島第5団土屋君も加わり、3団合同のプロジェクトとなりました。

コースの下見や隊長を交えた話し合いを行い、3人で作るビッグプロジェクト100kmハイクの計画が完成しました。

決行当日の5月3日午前9時に岩沼1団2名、福島1団5名、福島5団1名の計8名が参加して宮城県庁を出発しました。日中は想定外の暑さで体力を消耗し、夜は互いの姿勢すらも認識出来ない程の濃霧で寒さも厳しくなってきました。

当団の40kmハイクでは歩行途中で出来た足のマメの痛みには悩まされていましたが、今回は休憩毎に自分で治療が出来たお陰で、歩行のペー

スもずっと同じ状態を保ち続けられたため、100kmの長丁場を完歩出来たのだと思っています。

途中で足を痛めたりして一時的に抜けた仲間も最終的には全員が合流して、決して最適とはいえない天候の中、出発してから33時間後の午後6時全員が無事に福島県庁に到着出来ました。

多数のリーダーや地域の方々によるサポートに感謝しプロジェクトの成功を嬉しく思っています。



平成20年6月8日

古川第1団 ビーバー隊・カブ隊 合同列車ハイキング

ビーバー隊（感覚ミュージアム）・カブ隊（竹工芸館）へ

古川第1団カブ隊 高橋 ひな子

「竹とんぼを作った。」

私は、「竹工芸館」という所で竹とんぼを作った。

さい初は、「ナイフを使って作れるかなあ、私にも」と、思った。

そして、見本を見たり、おしえてもらったり、しながら作った。

やっと、りょう面をけずり終わって、いきをついた。二つ目を初めて、手がいたくなつた。そして、おしえてくれていた男の人が、手をさしのべて、けずってくれた。やさしい人だと思った。そして、初めにけずった面をけずった。二本作り終わった。初めて作った竹とんぼ、うまくつくれた。

左手にマメができていた。いたい。でも、うまく作れた。

「よしやっ」と思って喜んだ。

ちょうせんっていいな。



古川第1団カブ隊 早坂 日和

私は、竹とんぼを「竹工芸館」というところで作りました。

最初は、竹をけずる時、力をいれすぎてうまくけずれなくて、むずかしかったです。

でも、先生に分かりやすく教えてもらいました。最初の一本目はけずりすぎて、先生になおしてもらったけど、二本目は、なれてけずりすぎずにけっこううまくいきました。

作るのがとても楽しかったので、また、いつか行って、竹とんぼ以外も作ってみたいです。

古川第1団カブ隊 斉藤 幸美

わたしは、さいしょに、竹とんぼ作りをしました。さいしょ、ナイフみたいな物で竹を切りました。そして、竹を切った時に、ものすごくかたかったです。親指をいたくしたけど、手伝ってくれた人は、「いたいのは、がんばったしょうこだよ」と言ってくれました。私もいたかったけど、がまんをしました。

さい後に、私が、がんばってやっていたら、手伝ってくれて、手伝ってくれたあとに、「もうだいじょうぶだよ。とぶよ」と言ってくれました。

わたしは、その言われたしゅんかん、うれしくなりました。また、今度、大人になったら、竹とんぼ作りをしに、きたいなと思いました。後に、「いたいのは、がんばったしょうこだよ」と言われたのが一番心にのこりました。

万世園訪問

石巻第2団カブ隊副長 田中 祥江

4月20日、ビーバー隊とカブ隊合同で、『万世園』を訪問した。

この行事は毎年恒例で、「今年も万世園に行くんだよね」と、スカウト達も楽しみにしている。

今年は、入所者の皆さんと一緒に童謡を歌ったり、「かさこじぞう」の劇や歌を披露した。肩をたたかせていただいたり、握手をしたりというふれあいもできた。最後にスカウトの保護者にもご協力をいただいた、手作りのメダルや壁飾りをプレゼントし、よびかけをして終了となった。

涙を浮かべていらした入所者の方々や、普段お部屋からあまり出ることのないというおばあさんが、私達に会うために一生懸命、廊下をゆっくり歩いてきてくださったと伺い、感激した。

カブラリー・防災マップ作り・緑の羽根募金と続いた中での活動で、思ったように準備や出し物の練習もできなかったが、待ってくださっている皆様のために、来年も桜の季節にまた訪問させていただきたいと思った。

【団委員長より一言】

私も毎年見学参加しておりますが、園長さんより「洗練された慰問より、子供達の訪問が一番喜ばれる」と言われております。

来年は園が改修され、園庭が一般解放されるので、「ぜひ子供達の元気な声を聞かせてやって下さい」とお願いされました。

石巻地区の皆様及び近くの皆様、特に何もしなくて結構ですので、入園者の方々と触れ合いの時間を持ちませんか！



スピリット 楽しみながらスカウト 魂 をPR

石巻第6団 広報 蟻坂 隆

伊達の黒船サン・ファン・パウティスタ号（慶長遣欧使節船）を復元係留した石巻市サンファンパークで開かれた『サン・ファンまつり（5/24・25）』に石巻第6団は全団をあげて参加いたしました。

「遊びながらのキャンプは楽しいです」と会場緑地では訓練も兼ねたボーイ隊キャンプがあり、ベンチャー隊では野営食試食会のため泊まり込みの下ごしらえが行われました。またカブ隊の輪投げコーナー、水ヨーヨーつりではお客さんに元気に応対している姿が普段とは違うスカウトの顔を見ることが出来ました。ビーバー隊はお客さんと釣堀遊びに熱中し、高い技術を駆使したローバー隊の矢倉はお客さんたちの関心を集めていました。

今年の目玉は保護者会の朝掘り筍と手作り

スイーツ。格安販売でもあり好評を得ました。

全団スカウトが一堂に集うこのイベントは『6団まつり』の様相を呈しスカウトの活動資金捻出、PR、そして全団の親睦に寄与し、身体の痛みをこらえながらも楽しい2日間を過ごしました。



地区行事予告

◎東部地区

日帰りキャンプ『はじめての一步』 開催

開催期日：7月13日（日） 9:30 受付 10:00～15:00

会場：松島町民の森 長松園

（指導者・保護者・RSの交流を目的とし、一日ファミリーとして楽しく過ごす）

◎仙台地区

創立40周年記念第8回仙台地区キャンポリー 開催

開催期間：2008年7月31日（木）～8月3日（日）

会場：宮城県松島少年の家

◎石巻地区

創立40周年記念行事 開催

開催期日：2008年10月12日（日）

会場：石巻市遊学館

編集後記

6月14日朝グラッと来た。

岩手宮城内陸部地震、午前8時43分ガラス戸棚の器物が崩れ落ち地震対策のテレビも吊り下がり本棚の棚板が傾き図書が勝手に飛び出す。

地震の力は大きすぎる。

揺れる最中、50年ほど前東京へ出稼ぎに出た青年から来た手紙を思い出した。「俺、今東京で地球の修理工をやっている・・・。」突然の揺れ動く数十秒の中にぼうっと緊急の今とは無関係のその手紙を思っていた。思うと自失の状態だったのだろう。

誰かが地球をくすぐって居るのだろうか？地球を怒らせて居る。絶対そうだとも思った。もはや地球の修理工の手には負えない状態だ。

こんな時、普段の訓練と心掛けの有るボーイスカウトならば私の如く茫然自失は無くそれなりの対応が立派に出来るだろうと。

地震翌日、東北本線列車の大きな遅れで一時間ほど遅刻して塩竈市でのスカウトみやぎ編集委員会の席で自戒を込めて報告。

前出、地球の修理工はその後郷里に帰り“崩壊直前の農業基盤を守る修理公”農業委員として活躍。

ボーイスカウト、いつでも、どこでも人の役に立つことの願いしきり。

いよいよスカウト大きく期待の野外訓練活動の絶好機。

冒険・体験そして安全の成果多くの記事原稿を期待。（堀）

■発行 日本ボーイスカウト宮城県連盟
■編集 宮城県連盟広報委員会
委員長 堀越祐壽
副委員長 渡辺七郎
委員長代行 柿沼富雄
委員 高橋 修・大沼茂雄
砂押名湖・久光和明
〒981-0915
仙台市青葉区通町1-6-9
宮城県通町分庁舎内
TEL/FAX 022-234-2359
■印刷 株式会社 小野寺印刷所